

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書（その1）

計画体系コード		5-3-3			事業名	将来交通体系の検討
担当	市民まちづくり局総合交通計画部交通計画課 高久 TEL211-2275					
全 体 計 画						
事業内容	パーソントリップ調査とは、人の動きに着目した交通実態調査、現状の分析、将来交通の解析・検証を実施し、現在の少子高齢化などの社会情勢を考慮した将来の交通体系の検討を行い、将来の目標像であるマスタープランを策定するものである。本市では、過去3回にわたるパーソントリップ調査により移動実態を把握し、人口の増加や都市構造の進展などの将来予測を基に、交通基盤の目標であるマスタープランを策定してきた。 しかしながら、近年、人口増加の沈静化、都市構造の変化、公共交通の乗車人員の減少など、交通をとりまく状況が大きく変化しており、今後のバス路線のあり方など、公共交通の維持・拡充について検証する必要がある。 また、マスタープランの具体化に向け、自動車の使われ方や道路の交通量を調査する道路交通センサスなどを行い、予測と現状の確認を行いながら、課題解決に向けた効果的な事業展開を行うものである。			<年度別の事業内容>		
				平成19年度 現況分析		
事業内容				平成20年度 マスタープラン素案検討		
				平成21年度 マスタープランの策定 都市・地域総合交通戦略策定に向けた検討		
				平成22年度 道路交通センサス 都市・地域総合交通戦略策定に向けた検討		
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容（決算）			平成20年度事業内容（決算）		
	平成18年度に実施した、パーソントリップ調査の実態調査を基に、道央圏における人の動きについて、各種基礎データの解析を行い、交通に関わる現況分析を行った。 また、道央都市圏総合都市交通体系調査協議会を開催し、各種解析の方法や方向性について、確認を行いながら作業を進めた。			平成19年度に検討した、都市交通における現況分析を基に、将来の都市構造、人口フレーム、各種交通基盤（道路・地下鉄など）を設定した上で、交通需要予測をおこない、都市交通マスタープランの素案の検討を行った。		
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成21年度事業内容（予算）			平成22年度事業内容（予算）		
	平成20年度に引き続き、都市交通マスタープランの素案の検討を行い、道央都市圏総合都市交通体系調査協議会による議論、パブリックコメントを経た上で、都市交通マスタープランを策定する。併せて、短中期の実施計画として、都市・地域総合交通戦略の策定に向けた検討を行う。					

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書（その2）

計画体系コード	5-3-3		事業名	将来交通体系の検討		
達成目標の状況						
項 目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
交通体系マスタープラン(MP)策定	調査、検討	調査、検討	MP素案検討	MP策定		MP策定 (20年度)
市民・企業等との協働の状況（市民・企業等の参加、支援、協力の状況）						
■市民との連携、市民参加 計画を検討するに当たり、協議会の中でPI・PR部会を設置し、市民への情報提供や意見集約を行った。 具体的には、ホームページによる情報提供や、アンケート実施時の意見を取りまとめるとともに、市民参加として各種団体（障がい者団体、高齢者団体など）へグループインタビューを行い、様々な意見の集約に努め、計画検討に役立てている。 ■企業等との連携・協働 [資金協力]（該当なし） [人材協力] 各種団体（商工会議所、旅行業社、旅館・ホテル組合）などへグループインタビューを行い、情報の収集・意見交換を行った。 [情報協力] 各種団体から、現状の課題や要望など、情報収集を行った。 [その他の協力] ■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 市民・企業向けに、現況分析結果をまとめたパンフレットを作成し、公共施設において配布した。 また、パーソントリップ調査の基礎データを、市民や企業などが、手軽に利用できるよう、その制度や体制について、検討を行う予定。						
評 価（ 成 果 ）			課 題			
平成18年度に実施した交通実態調査、平成19年度に実施した現況分析、各種団体のグループインタビューをもとに、都市交通マスタープランの策定に向けた検討を行った。検討にあたっては、これまでの調査・分析等により明らかになった問題点・課題に対応すべく都市圏の将来像を設定し、道央都市圏総合都市交通体系調査協議会のワーキング、幹事会、協議会において方向性を確認しながら作業を進めた。			マスタープランの立案にあたっては、社会状況の変化、市民ニーズの多様化、環境問題などへ対応した新たな交通計画が求められている。この計画策定にあたっては、多岐にわたる関係機関との意見調整が必要となる。 また、わかりやすく市民へ情報提供できるよう、ホームページやパンフレット作成にあたり、工夫が必要である。			
今 後 の 事 業 の 予 定 ・ 方 向						
平成18年度の交通実態調査、平成19年度の現況分析や都市圏の将来像の検討に引き続き、平成20年度から、都市交通マスタープランの素案の検討を開始した。 平成21年度には、都市交通マスタープランを道央都市圏総合都市交通体系調査協議会の議論、パブリックコメントを経た上で、策定する予定であり、平成22年度以降、札幌市の短中期の実施計画として、都市・地域総合交通戦略を策定する予定である。						

(単位:千円)

計画体系コード	5-3-3	事業名	将来交通体系の検討			
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	102,000	129,000	5,000	60,000	296,000
	財国・道支出金	34,000	43,000	0	20,000	97,000
	財源内市債	0	0	0	0	0
	財源内その他	0	0	0	0	0
	財源内一般財源	68,000	86,000	5,000	40,000	199,000
予算	事業費	102,000	87,000	38,000	—	227,000
	財国・道支出金	34,000	29,000	11,000	—	74,000
	財源内市債	0	0	0	—	0
	財源内その他	0	0	0	—	0
	財源内一般財源	68,000	58,000	27,000	—	153,000
実績	事業費	102,000	87,000	—	—	189,000
	財国・道支出金	34,000	29,000	—	—	63,000
	財源内市債	0	0	—	—	0
	財源内その他	0	0	—	—	0
	財源内一般財源	68,000	58,000	—	—	126,000
事業費の進捗率		(H19実績事業費+H20実績事業費+H21予算事業費) / (計画事業費)				76.7%
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)						
〔全体〕						
〔19年度〕						
〔20年度〕 パーソントリップ調査協議会において、冬期に関するデータ整理や方向性の検討などの追加検討が提案された。これらの検討に時間を要することと合わせて、市民意見の収集や合意形成など、十分なPI活動が必要であることから、マスタープランの検討を、H21まで行うよう変更した。						
〔21年度〕 マスタープランの検討をH21までに変更したことに伴い、マスタープランの策定をH21に変更した。						